

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/母性看護学】

科目名		ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
母性看護援助論Ⅱ		NSP33_006	必修	1	3	前期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
飯嶋 玲奈		405	reina.iijima		水曜日 9:00～13:00	
授 業 の 目 的 ・ 概 要	母性看護学概論、母性看護学援助論Ⅰで得た学びをもとに、正常経過の妊娠・分娩・産褥・新生児期の看護過程を、家族の役割なども含めてウェルネスの視点を活用してアセスメントし、看護計画の立案および評価という一連のプロセスの基本的な展開方法を学修する。また、妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護に特有な技術を学ぶ。対象に応じた方法で実践をし、技術・態度を修得する。					
授 業 形 式 ・ 方 法	☒対面授業 ☐遠隔授業(双方向型) ☐遠隔授業(自主学習) ☒講義 ☐実習 ☒演習 ☐実技 ☒PBL ☒グループワーク ☐その他 () ☐反転授業 ☐プレゼンテーション ☐ディスカッション・ディベート ☐実習・フィールドワーク					
学 習 上 の 助 言	3 年後期の母性看護学実習に直接つながる学修となる。ウェルネス看護過程、知識や技術をその都度確認しながら事例展開を行うこと。妊婦や新生児モデルを用いて演習をする。実践を意識し、積極的に取り組むこと。					
教 科 書	・系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学① /著:森恵美 他 /医学書院 /2023 ・系統看護学講座専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学② /著:森恵美 他 /医学書院 /2023 [2 冊指定]					
参 考 書	・根拠がわかる母性看護過程 事例で学ぶウェルネス志向型ケア計画 /編:中村幸代 /南江堂 ・ウェルネスから見た母性看護過程+病態関連図 編:/佐世正勝 他 /医学書院					
外 部 教 材	特になし					
学生が達成すべき行動目標					関連卒業認定・学位授与方針	
①	リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点をもちに、多様な価値観を尊重した看護のあり方を考えることができる。				NS(1)(2)	
②	産褥期、新生児期の母子の健康状態（健康上の問題）を判断し、健康増進に向けて必要な看護を考えることができる。				NS(2)(3)(4)	
③	妊娠期・分娩期・産褥期および新生児期にある母子の看護に必要な基本的技術を理解し、正確に実施することができる。				NS(2)(3)(4)	
④	演習では学生同士で協力し協調性及びリーダーシップをはぐくむことができる。				NS(1)～(5)	
授 業 計 画						
回	学習内容等		授業方法	学習課題・学習時間（時間）		
1	オリエンテーション 事前課題の説明		講義	【事後】事前課題の取り組み、確認試験の準備	1	
2	基礎知識確認試験 事例の提示		講義	【事後】事例を読み、わからない内容を調べる	1	
3	事例の解説、アセスメントの視点		講義	【事後】産褥期のアセスメントの視点の復習 事例の情報を整理する	1	
4	産褥期のアセスメントの視点		講義		1	
5	・母性看護技術のデモンストレーションと演習 ・事例に基づくアセスメント・計画立案 （個人ワーク） ※技術演習はグループごと交替しながら進める		演習	【事前】母性看護技術の手順、注意点の復習 【事後】看護過程記録の整理と修正 技術の復習	1	
6					1	
7					1	
8					1	
9	事例の関連図を作成する		演習	【事後】関連図を完成させる	2	
10						
11	グループごとロールプレイの準備（GW）		演習	【事後】発表の練習、修正	2	
12						
13	ロールプレイ（発表）		演習	【事後】ロールプレイ内容の振り返りと記録	2	
14						
15	まとめ		講義	【事後】定期試験・技術試験に向けた準備	1	
試	定期試験、技術試験は別途定める 達成度評価・評価のポイント参照					

【専門科目領域/専門科目群/看護の展開/母性看護学】

達成度評価							
総合評価割合（％）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		70	10	10	0	10	100
総合力指標	知識・技術力	40	3	0	0	5	48
	思考・推論・創造する力	20	5	0	0	0	25
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	0	5
	発表・表現伝達する力	0	0	3	0	0	3
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	5	5
	問題を発見・解決する力	10	2	2	0	0	14
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	・第2回の授業で、基礎知識の確認試験（40分程度）を実施し30％で評価する。 ・定期試験を全講義終了後に実施し20％で評価する。 ・母性看護技術の実技試験を実施し20％で評価する。			試験実施後答案の返却および解説する。	
	②	✓					
	③						
	④						
レポート	①	✓	事例に基づいて取り組んだ看護過程の課題を10％で評価する。			全体に向けて解説し課題を返却する。	
	②	✓					
	③	✓					
	④						
成果発表	①	✓	看護過程に基づいた看護を実践し（ロールプレイ）10％で評価する。			全体に向けて口頭でフィードバックする。	
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
その他	①		3年次後期の母性看護学実習で実施する看護技術の手順や注意点をまとめる。取り組んだ課題を10％で評価する。 ※看護技術については、事前課題に加え、教員によるデモンストレーションを踏まえ演習に取り組み、技術試験に向けて練習します。			課題は確認後返却する 不足箇所や技術のポイントを解説する。	
	②						
	③	✓					
	④	✓					
備 考							
他 担 当 教 員	なし						
教 員 の 実 務 経 験	総合周産期母子医療センターにおいて助産師として、5年の臨床経験を有し、かつ母性看護学および助産学の7年の教育経験を有する者が教授する。						
実践的授業の内容	実務経験のある教員が実践での経験を活かした内容を交えた事例をもとに看護過程を展開し、看護技術を含めたロールプレイを実施する。 実際の対象や家族、環境をイメージしながら、より実践的な看護過程の展開や技術の修得を目指す。						
そ の 他	・2年次の母性看護学概論や母性看護援助論Ⅰが基盤として実践、応用の演習が主となる科目です。よく復習して知識を定着させたうえで授業に臨んでください。 ・『試験』項目は、合格基準（60％）に達しない場合、再試験の対象となります。 ・課題の提出遅れや演習の欠席は評価対象外となります。 ・演習する内容は後期の実習に直結するため、積極的かつ真摯な態度、身だしなみで臨んでください。 ・講義資料は事前に Teams 内に格納します。その他授業のフィードバックなど Teams や Forms を広く活用します。デバイスの準備（持参、充電）やログインなど自身の準備体制をきちんと整えたうえで授業に出席するようにしてください。						